

や―据習ひくよき鷹よ成―後も狸の雄を鷹よりふ時をいふ
形も逸物ありとも多きとぬとるなりあれはなれなりとま
あきくも―此狸の雄なり今らり―くさるゝ又鷹の流義よ
依て鷹うけの事ともぬとも云古語の解らり―だ塙本ハ
二句をひ―きとまるとも又啓蒙集も此歌の下句のため
とむ―き―人よなるあきももるゝ

あきうれとるゝなるほいぬのき―とらり―あき―

古語はあき―れともるゝ―垂布ハ家の紋あき―深付るといふ―
かゝるゝ布へ―今ハ多く畳の表や―此物にて製るゝ架布架繒架
垂とも云其製武用弁略鷹の書等よらり―く―あき―泊木也